試合に関する注意事項

試合のスピードアップ化・競技者のマナーに関する事項及びアマチュア野球内規

（競技者必携抜粋）

【チーム】

①用具は事前に点検をしておくこと。（※沖縄県中体連野球専門部から出ている**「用具規定」**を熟読すること。）

（ア）金属バットのへこみ　（イ）複合バットのラバーの破損　（ウ）ヘルメットの衝撃吸収材の有無

（エ）捕手用防具の破損　※各用具とも「J.S.B.B.」「SG マーク」が表示されていること。

※「SG マーク」入り捕手用マスクの使用は 2021 年度まで猶予期間　2022 年度より適用。

②試合開始前や救援投手の準備する際、ブルペン捕手は、捕手用防具・マスクを着用し投球練習を受ける。

【ベンチから】

③ベンチからの声かけは、味方の選手に対しての声かけであり、対戦相手に対しての圧力をかけてはいけない。（ヤジやピッチャー及び野手を惑わすような声は禁止）

【打者・次打者・ベースコーチ】

④打者・次打者・ベースコーチ（4名）はミーティングに参加せず，速やかに定位置に移動すること

※控え選手がバット・ヘルメット・手袋・飲み物等を前もって準備しておく（担当を決めておく）

【打者】

⑤打者は速やかにバッターボックスに入ること。また、バッターズ・ボックス内に両足を入れて，ベンチ等からのサインを見ること（※打者が正規の打撃姿勢をとらないときは，投手は打者に投球をしてはならない）

※正規の打撃姿勢とはバッターボックス内に両足を入れ、投手に面したときである。

⑥四死球で出塁するときは，**バットをその場に置くこと（※打者のバットはバットボーイが直接とること）**

⑦打者がインコースの投球を避ける動きをしながら当たりにゆく行為を禁止する。

⑧打者がヒジ当てを利用してのヒット・バイ・ビッチ（死球）狙いの行為を禁止する。

【次打者】

⑨次打者席（ネクストバッターズボックス）には**必ず次打者**が入り，**投手が投球姿勢に入ったら素振りをしてはならない。投手も必ず次打者席に入ること。**　※代理（バットボーイなど）は認めない。

⑩先頭打者は、イニング間の投球練習が最後の1球になるまでネクストサークルで待機すること。

【打者走者（バッターランナー）】

⑪打者走者はスリーフットライン内を走るようにする。（※守備妨害になる場合があります）

【走者】

⑫タッグプレイのとき、野手がボールを明らかに保持している場合、走者は（たとえ走路上であっても）野手を避ける、あるいは減速するなどして野手との接触を回避しなければならない。

⑬走者が、ベースパスから外れて野手に向かって滑ったり、または走ったりして野手の守備を妨げた場合（接触したかどうかを問わない）妨害が宣告される。

⑭走者は、使用しない手袋をユニフォームのポケットにしまうこと。**（※ベースコーチへ預けないこと。）**

※レッグガードとエルボーガードを外す時のタイムは認めるが速やかに行うこと。

⑮残塁した走者はベンチに戻らずに，控えの選手から帽子・グラブ等をファウルグラウンドで受け取り，定位置に向かう。

※特に捕手の場合は，正捕手はバッタースボックスとネクスト・バッタースボックスとの中間点で待ち，控え選手がキャッチャーズヘルメット・マスク・プロテクター・レガーズを準備し，2～3名で防具装着の協力をする。

【投手・捕手】

①投球を受けた捕手は，**その場から速やかに投手に返球する**こと。また，捕手から返球を受けた投手は，**速やかに投手板に触れて**投球姿勢をとること。

②無用な牽制が度を過ぎると審判員が判断したら、遅延行為として投手にボークを課すことがある。

【投手】

③投手は、捕手、その他内野手または審判員からボールを受けた後、走者がいない場合には 12 秒以内、走者がいる場合は 20 秒以内に投球しなければならない。違反した場合、走者がいない場合にはただちに「ボール」を宣告し、走者がいる場合は警告を発することとし、同一投手が 2 度繰り返したら、3 度目からはその都度ボールを宣告する。　　競技者必携 P33　試合のスピード化に関する事項8

【捕手】

④捕手が投球を受けた時に意図的にボールをストライクに見せようと**ミットを動かしたり**，球審のボールの宣告にあたかも抗議するかのように球審がコールする前にすぐミットを動かして**返球態勢に入ったり**，しばらくミットを**その場においておく**行為を禁止する。

⑤捕手は、ボールを持たずに得点しようとしている走者の走路をブロックしてはならない。（コリジョンルール）

【野手】

⑥一塁手は内野手からの送球時にはスリーフットライン内には足を入れないようにする。（※走塁妨害になる場合があります）

⑦野手が走者の視界をさえぎる行為を禁止する(タッグアップ，二塁牽制など)

【捕手・野手】

⑧タッグプレイのとき、捕手または野手が、明らかにボールを持たずに塁線上及び塁上に位置して、走者の走路をふさいだ場合は、**オブストラクションが厳格に適用される。**

【監督が投手のもとへいく回数の制限】

⑨監督が1試合に投手のもとへ行ける回数は3回以内とする。なお、延長戦(タイブレーク方式を含む)は、1 イニングに1回行くことができる。

【守備側・攻撃側のタイムの回数の制限】

⑩守備側･攻撃側のタイムは、1 試合に 3 回以内とする、なお、延長戦(タイブレーク方式を含む)は、1 イニングに1回行くことができる。タイムは 1 分以内を限度とする。

【タイムカウント】

⑪守備側のタイムの間に、攻撃側が打者及び走者を呼んだ場合、守備タイムの時間内であればカウントしない。攻撃タイムの間の守備タイムについても、同様に扱う。